

いもう 葦毛通信



平成 27 年 7 月 17 日
豊橋市文化財センター
TEL : 0532-56-6060

No. 25

1、2015 モニタリング報告ー3

ノカンゾウ

葦毛湿原では、前回報告したササユリ、トキソウ、ノハナショウブ等が終わり、ノカンゾウが咲き始めました。また、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケやミミカキグサ、ミカヅキグサ等も咲き始めました。これから夏の花が順番に咲いていきます。

昨年度作業を行った各地点にも変化が見られます。特に、バックホーによりコシダやネザサの根を除去し、近くに播き出したところから様々な植物が発芽してきました。これから地点ごとに近況を順番に報告していきます。

K地点

K地点では、2×4mの実験区を設定し、K-3地点としました。平成25年度に設定したK-1地点はネザサの根を除去したところ表土が流れて裸地化して植物の発芽があまり見られませんでした。今回のK-3地点は、ネザサの根だけを除去し、土をできるだけ残すようにしました。横方向に礫が3列見えますが、礫で低い土手を造り土が流れ出さないようにしたところです。この礫があるところは、やや高くなって乾燥気味になっています。この乾燥気味のところからは、トウカイコモウセンゴケが発芽しました。トウカイコモウ



K-3地点 (7月11日)



K-1地点 (7月11日)

センゴケは、やや乾燥したところが好きなようで、K-1地点の実験区でも、実験区の両側の断面や、両側から流れ込んだ土から発芽していました。礫の間にも土が溜まっており、ここからいくつかの植物が発芽しています。3列の礫の土手の間は土が多く溜まっていますが、予想通り、ここから多くの植物が発芽してきました。ミカヅキグサやヌマガヤが発芽してきたようですが、植物名はまだ良く分かりません。予想通り、土の部分には埋土種子が豊富に残されているようで、今後まだ発芽してくる植物も多くあると思います。どのような植物が出現するかは、これからも観察を続けていきます。

また、K-3地点は、剥ぎ取ったネザサの根を実験区の上流側（画面奥）に積み上げました。23号の写真でわかるとおり、低い山状になっています。ここからは、ネザサが多く発芽しています。ヌマガヤも多く発芽し、実験区の両側と同じ状況になっています。

K-1地点では、イヌノハナヒゲが目立って増えました。特に写真の中央奥側に集中しています。しかし、手前の裸地は相変わらず植物の発芽は少ないようです。一旦裸地化すると礫の間に残っている埋土種子が少ないためかもしれません。湿地として良好な状態に復元するには時間がかかるようです。（他の地点については、次号以降で順次報告します。）

2、葦毛湿原の動物調査ー2

1、ニホンイノシシ

ニホンイノシシは35回撮影できましたが、写真と動画で性別等を確認するとかなり偏っていることが分かります。オスと確認できるのが7月21日、10月11日の2回だけで、メスだけが写っていたのは7回、メスと子供（幼体）が写っていたのが5回、子供だけが写っていたのが12回、性別不明が9回です。

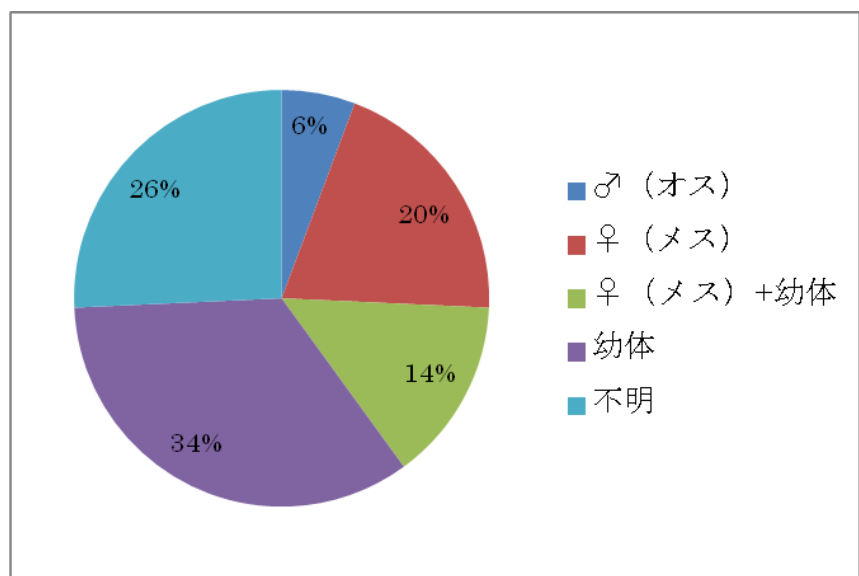
子供だけで活動していることは無いと思いますので、子供だけが写っていたものは、たまたま近くにいた母親が写っていない可能性が高いと考えられます。そうだとすれば、子供が写っていたのは17回で、全体のほぼ50%になり、約半数が母親と子供であった可能性が最も高いと考えられます

オスは2回確認できました。写真には写っていませんが、動画の後ろ姿で確認しました。すべて単独で、複数写った例はありません。

メスは乳房が確認できたものです。メスだけで写っていたものも、そばにいた子供が写っていない可能性もありますが、子供は母親の後ろについて歩いている場合が多いと思いますので、単独行動のメスの可能性も考えられます。しかし、確認できるメスはすべて1頭で、複数のメスが写ったことはありません。ニホンイノシシの場合、子育てをしていないメスが複数集まって群れをつくることのあるようですが、そのような状

ニホンイノシシ内訳表

性別等	回数
♂(オス)	2
♀(メス)	7
♀(メス)+幼体	5
幼体(子供)	12
性別不明	9
合計	35



ニホンイノシシ性別等内訳

態は確認できていません。

子供が写っていたのは全体のほぼ半数です。最初に子供が確認されたのは7月28日ですが、確認できる写真を見ると、8月30日と9月10日はほぼ同じ所で同じ姿勢で写ってい



ニホンイノシシ: ♂(7月21日)



ニホンイノシシ: ♂(10月11日)



ニホンイノシシ: ♀(6月19日)



ニホンイノシシ: ♀(7月28日)



ニホンイノシシ: ♀+幼体3頭(8月25日)



ニホンイノシシ: ♀+幼体1頭(10月21日)

ます。両者が同じ個体かどうかは分かりませんが、9月10日の個体はおなか周りが少し太くなり、一回り大きくなっているようです。10月21日は少し撮影位置がずれています、

さらに大きくなっているようです。このように、子供は明らかに成長しています。今回の調査では、個体識別ができていないので、同じ個体かどうかは確認できませんが、同じメスと子供たち（4頭以上）がたびたび写っている可能性は高いと判断しています。ニホンイノシシは35回撮影されましたが、撮影回数が多い割には、実際の個体数はあまり多くないのかもしれませんが。（葦毛湿原へのイノシシの影響は、次号で詳しく報告します。）



ニホンイノシシ幼体2頭(9月10日)



ニホンイノシシ幼体1頭(8月30日)



ニホンイノシシ幼体1頭(9月10日)



ニホンイノシシ幼体2頭(10月21日)

ナガバノイシモチソウ観察会

ナガバノイシモチソウの観察会を下記の通り2回開催します。自生地内には、観察会の時しか入れません。

日時：8月8日(土)・23日(日)午前9:30~11:00

場所：幸公園長三池北側の自生地(佐藤町字池下)

申込：豊橋市文化財センター(0532-56-6060)まで

ナガバノイシモチソウは6月27日に初めて4輪の開花を確認しました。自生数は2,660株になり、昨年のほぼ2倍になりました。観察会の頃には、たくさんの花を咲かせてくれるでしょう。大規模植生回復作業により、順調に回復している姿をぜひご覧ください。

